

土岐市の現況について

土岐市を取り巻く状況について、下記のように整理しました。
分かりにくい表現や過不足がないか、ご確認をお願いします。

1. 人口の減少と少子高齢化の進行による人口構成の変化

土岐市の総人口は減少傾向にあり、国勢調査では、令和 2(2020)年時点で総人口は 55,348 人と平成 22(2010)年より約 5,000 人減少しています。年齢 3 区分別にみると、年少人口割合は年々減少し、令和 2(2020)年時点で 11.8%、老年人口割合は年々増加し令和 2(2020)年時点で 32.0%と、市民の約 3 人に 1 人が高齢者となっています。一方、世帯数は増加傾向にあり、令和 2(2020)年時点で、21,359 世帯と平成 22(2010)年より約 700 世帯増加しています。内訳をみると、単独世帯と核家族世帯は増加、三世帯世帯が減少しています。

外国人は増加傾向にあり、令和 2(2020)年時点で 1,640 人と総人口の3%を占めています。内訳をみると、フィリピン人やベトナム人が多く、次いで韓国・朝鮮、中国となっています。

市内の就業者人口をみると、年々、減少傾向にあり、令和 2(2020)年時点で 27,623 人と平成 22(2010)年より約 2,600 人減少しています。内訳をみると、1 次産業は微増、2 次、3 次産業の就業者数が減少しています。

人口減少や少子高齢化、核家族化の進展、外国人の増加、就業者人口の減少など、土岐市の人口構成は従前よりも大きく変化しています。

2. こどもの減少と保育・教育の強化

土岐市の 15 歳未満の人口をみると、年々、減少傾向にあり、令和 2(2020)年で 6,553 人、総人口に占める割合は 11.8%と過去最低となっています。

就学前のこどもが保護者の就労などの状況にかかわらず、希望する施設を利用できる環境を整備し、安心安全な保育・教育環境を確保するため土岐市では、公立保育園を廃止し、認定こども園として運営しています。

令和6(2024)年に行った幸福度調査によると、教育に関連する数値が低く、市民が教育・保育に満足していないことが確認できます。

3. 激甚化する災害への対策

近年、全国的に、台風や集中豪雨による水害が頻発しており、気候変動の影響で激甚化しています。土岐市で平成元年以降に発生した災害をみると、台風や集中豪雨といった風水害による災害が多く発生しています。また、発生すれば甚大な被害をもたらす南海トラフ巨大地震や屏風山・恵那山及び猿投山断層帯地震など巨大地震による被害への対応も求められていますが、平成 30(2018)年時点での既存住宅の耐震化率は 81%に留っています。地震の被害を最小限に抑えるためには、自分自身の身の安全を守る『自助』への取り組みや、災害関係機関の連携強化、地域住民の防災力の向上などの『共助』への取り組みも必要です。

4. 1300 年以上の伝統を持つ美濃焼の産地

東濃地方で生産される陶磁器・美濃焼は国内陶磁器生産量の約半数を占め、美濃焼産地の中で生産量が最も多いのが土岐市です。土岐市は 1300 年以上の伝統を持つ美濃焼の産地として、全国でも有数の焼き物のまちとなっています。

市内には、『土岐市美濃焼伝統産業会館』や『土岐市美濃陶磁歴史館』、『道の駅 どんぶり会館』、『道の駅 志野・織部』など市内外の人が美濃焼の歴史を身近に感じたり、買い物を楽しめる施設が多数あるほか、作陶体験できる工房も多くあります。

陶磁器産業の事業所数は、市内の製造業の事業所の7割を占め、製造品出荷額は3割を占め、土岐市の基幹産業となっています。

5. 豊かな自然環境

土岐市の市域の6割以上を山林が占めており、緑豊かな丘陵や土岐三国山県立自然公園など、市内外に誇る豊かな自然に囲まれた地域となっています。市南部の丘陵地にある三国山展望台からは、樹林に囲まれた土岐市街地を望むことができます。

市の南部は急峻な地形を有し、丘陵地が市域の 7 割を占める南高北低の地勢であることから、まちのどこからでも背景に山なみを望むことができます。また、市内には、北部を東西に横断する土岐川をはじめとする 9 つの一級河川が流れています。

市の南部には土岐三国山県立自然公園があるほか、陶史の森、織部の里公園、仲森特別緑地保全地区などの施設の緑がまちに潤いをもたらしています。

6. 地域コミュニティの活性化による住みよいまち

土岐市では、単独世帯の増加や自治会加入率の低下により地域コミュニティの希薄化が進行しています。また、地域課題解決のためには、行政と地域が連携することが求められています。

また、刑法犯発生件数や交通事故の発生は減少傾向で、令和 4(2022)年の刑法犯発生件数は過去最低の水準となっており、治安の向上が見られます。

7. 効率的な行財政運営と公共施設の適切な維持管理

土岐市の財政力指数は令和 3(2021)年で 0.67 と近年は横ばいとなっており、全国平均(0.50)を上回っています。しかし、今後、人口減少と高齢化の進行から税収の伸びはそれほど期待できず、一方で社会保障費は増加し、財源は厳しさを増すことが見込まれます。

また、土岐市では、多くの公共施設等を有していますが、それらの老朽化対策が大きな課題となっています。人口減少、高齢化の進展などにより、施設の利用需要も変化していくことが見込まれます。

参考1 第六次で整理した現況

第六次総合計画では、現況を土岐市の「強み」「弱み」に分類して、10項目に分類して整理していました。

(1) 土岐市の強み

1300 年以上の伝統を持つ美濃焼の産地

土岐市は 1300 年以上の伝統を持つ美濃焼の産地として、全国でも有数の焼き物のまちとなっています。これら焼き物は、歴史や産業として市民に根付き、作陶体験・買い物などで観光客を楽しませてくれています。

観光・交流による来訪者数の拡大

「土岐プレミアム・アウトレット」には年間 590 万人超の方が訪れ、他にも「道の駅志野・織部」、「道の駅どんぶり会館」、「テラスゲート土岐」、「土岐美濃焼まつり」などの施設やイベントに市内外から多くの観光客が訪れています。

豊かな自然環境

地域の多くを占める緑豊かな丘陵や土岐三国山県立自然公園など、市内外に誇る豊かな自然に恵まれています。特に、泉地域や鶴里地域では、世界的にも貴重な自生するシデコブシの群生地が見られ、また市内各所に、絶滅が危惧される生物が生息する湿地なども数多く残っています。

便利な広域交通網

中央自動車道が東西に、東海環状自動車道が南北に通る、広域交通の結節点となっています。また、市内にはインターチェンジ(五斗蔭スマートICを含む)が3カ所あり、各方面から観光に訪れる方の利便性が増ただけでなく、物流の重要な拠点となっています。平成 37 年(2027 年)にはリニア中央新幹線岐阜県駅が中津川市内に整備される予定であり、更なる交流人口の増加が期待されます。

(2) 土岐市の弱み

人口減少と高齢化の進展

土岐市の人口は減少していますが、高齢単身世帯、要支援・要介護認定者数は増加しています。そのため、福祉対策や高齢者が元気に生活できる環境づくりなどが求められています。

駅周辺の衰退・空洞化

市内の商業の事業所数が減少しており、特に、駅周辺の衰退が顕著です。空き店舗対策、公共交通機関の充実、イベント開催等による交流機会を強化し、市民生活を支える役割として再生していくことが求められています。

事業所数等の減少・産業活動の低迷

市内の事業所数や従業員数は減少し、特に窯業・土石製品製造業の製造品出荷額は最盛期の半分程度となっています。基幹産業でもある窯業の振興と新産業の誘致や育成、起業支援が求められています。

協働まちづくり機会の不足

核家族化などが進み、これまでの地域まちづくり活動が希薄化する傾向がみられます。市民の意見を聴き、参画する機会の充実と自主的な活動の支援が求められています。

財政力の脆弱(ぜいじゃく)性

市の財政は厳しさを増しており、身の丈にあった歳出と新たな歳入確保に取り組み、健全な財政運営が求められています。

地域医療への不安

医師不足や診療報酬の見直しなど、地方病院を取り巻く環境は厳しくなる一方、地域医療の重要性は増し、市民が安心して適切な医療を受けられる体制を確保することが求められています。